

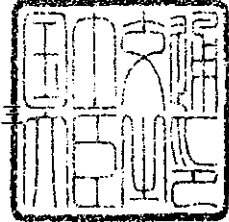


# 認定書

国住指第 1272 号  
平成 19 年 8 月 14 日

田島ルーフィング株式会社  
代表取締役社長 田島 国雄 様

国土交通大臣 冬柴 鐵三



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 26 第 1 項 (同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。)の規定に基づき、同法第 63 条並びに同法施行令第 136 条の 2 の 2 第一号及び第二号 (防火地域又は準防火地域内の建築物の屋根)の規定に適合するものであることを認める。

## 記

1. 認定番号

DR-0352

2. 認定をした構造方法等の名称

アスファルトシングル・アスファルトルーフィング・硬質ウレタンフォーム保温板・野地板表張／鋼製下地屋根

3. 認定をした構造方法等の内容

別添の通り

(注意)この認定書は、大切に保存しておいてください。

1. 構造名

アスファルトシングル・アスファルトルーフィング・硬質ウレタンフォーム保温板・野地板表張／  
鋼製下地屋根

2. 申請仕様の形状・寸法等

申請仕様の概要を表 1 に示す。

表 1 申請仕様の形状・寸法等

項目	申請仕様
形状	シングル葺き屋根形状
支持部材の間隔	606mm 以下
支持部材の傾斜角度	30° 以上 70° 以下

3. 申請仕様の主構成材料

申請仕様の主構成材料を表 2 に示す。

表 2 申請仕様の主構成材料

項目	申請仕様
アスファルト トシングル	<p>質量 8.6～15.2kg/m<sup>2</sup> (施工面積当り)                      厚さ 2.8～6.4mm (一枚当り)                      幅 306～336mm、長さ 916～1000mm                      質量 4.2～6.2kg/m<sup>2</sup> (一枚当り)                      働き幅 (葺き足) 125～150mm</p> <p>構成 (施工面積当り) :                      鉱物系粒子 (天然スレート砂、着色鉱物質粒) :                      質量 3.65～4.65kg/m<sup>2</sup> (着色顔料含む)                      平均粒径 2～3 mm                      無機質系フィラー混入アスファルト :                      質量 4.26～9.30kg/m<sup>2</sup> (アスファルトシングル質量の 49.5～60.7 質量%)                      無機フィラー60 質量%含む (炭酸カルシウム等)                      ガラス繊維マット :                      質量 0.22～0.44kg/m<sup>2</sup>、厚さ 0.7～1.3 mm (一枚当り)                      (アクリル系バインダー15 質量%以下含む)                      けい砂 :                      質量 0.37～0.44kg/m<sup>2</sup>、平均粒径 0.2 mm                      改質アスファルト系接着剤 :                      質量 0.37kg/m<sup>2</sup> 以下、または接着剤なし</p> <p>*有機質量 1.84～4.15kg/m<sup>2</sup>、無機質量 6.76～11.05kg/m<sup>2</sup>                      ・アスファルトシングルの形状と断面構成を図 1 及び図 2 に示す。                      ・アスファルトシングルの質量を表 3 に示す。</p>

## つづき

アスファルト系接着剤	固形量 0.88 kg/m <sup>2</sup> 以下 (塗布量 1.2kg/m <sup>2</sup> 以下) または接着剤なし { アスファルト 42 質量% けい砂 34 質量% 石油系炭化水素 (溶剤) 24 質量%
アスファルトルーフィング	厚さ 0.6~1.5 mm、質量 0.59~1.97kg/m <sup>2</sup> 使用量 1 層または 2 層  構成 (1 層当り) : 基材: 原紙または合成繊維補強紙または不織布 質量 80~110g/m <sup>2</sup> 浸透アスファルト: 浸透量 160~375g/m <sup>2</sup> (基材への浸透) アスファルト層: 質量 305~500g/m <sup>2</sup> 、またはアスファルト層無し アスファルトまたは改質アスファルト 炭酸カルシウム 40 質量% 以下含む 改質アスファルト系粘着層: 質量 200~530g/m <sup>2</sup> 、または粘着層無し 表面被覆層: 以下の①~③の何れか、または①と②、①と③を組み合わせた仕様とする。 ① 鉱物質粉粒: 質量 180~240g/m <sup>2</sup> 、平均粒径 0.1~0.2 mm ② 塗装合成高分子フィルム: 厚さ 12 μm、質量 20g/m <sup>2</sup> ③ 塗料: 固形量 10g/m <sup>2</sup> 未満、または塗料無し 裏面鉱物質粒: 質量 0.18g/m <sup>2</sup> 以下、または鉱物質粒なし  * 合計有機質量 2.80kg/m <sup>2</sup> 以下
断熱材	硬質ウレタンフォーム保温板 (JIS A 9511) : 厚さ 200mm 以下 (厚さ 50.2mm 以下を 4 枚以下重ね張) 密度 37kg/m <sup>3</sup> 、熱伝導率 0.022W/m·K 両面アスファルト含浸ガラス繊維マット張: 厚さ 0.1mm、質量 205g/m <sup>2</sup> (一面当たり) { ガラス繊維マット: 質量 100g/m <sup>2</sup> (アクリル系バインダー15 質量%含む) 含浸アスファルト: 質量 105g/m <sup>2</sup> * 合計有機質量 7.52 kg/m <sup>2</sup> 以下
断熱材接着層	アスファルト系接着剤: 固形量 1.1 kg/m <sup>2</sup> 以下 (塗布量 1.5kg/m <sup>2</sup> 以下) { アスファルト 42 質量% けい砂 34 質量% 石油系炭化水素 (溶剤) 24 質量%

## つづき

プライマー	固形量 0.20kg/m <sup>2</sup> ①～④のうちいずれか一仕様とする。  ①アスファルトエマルジョン系プライマー ②アクリルエマルジョン系プライマー ③アスファルト・溶剤系プライマー ④なし
下地	
鋼製下地	
野地板	①～⑨のいずれか一仕様とする
木質系 ボード	①普通合板、②構造用合板、③耐水合板 (JIS A 5908)、④素地パーティクルボード (JIS A 5908)、⑤OSB (JIS A 5908) : 厚さ:9mm 以上
セメント系 ボード	⑥繊維強化セメント板、⑦繊維混入けい酸カルシウム板、⑧住宅屋根用化粧スレート (JIS A 5423) 厚さ:12mm 以上 (不燃材料に限る) ⑨木質系セメント板 (JIS A 5404) 厚さ:12mm 以上 (準不燃材料に限る)
支持部材	軽量形鋼 リップ溝形: 大きさ 60×30×10mm 以上、厚さ 1.6mm 以上、設置間隔 606mm 以下

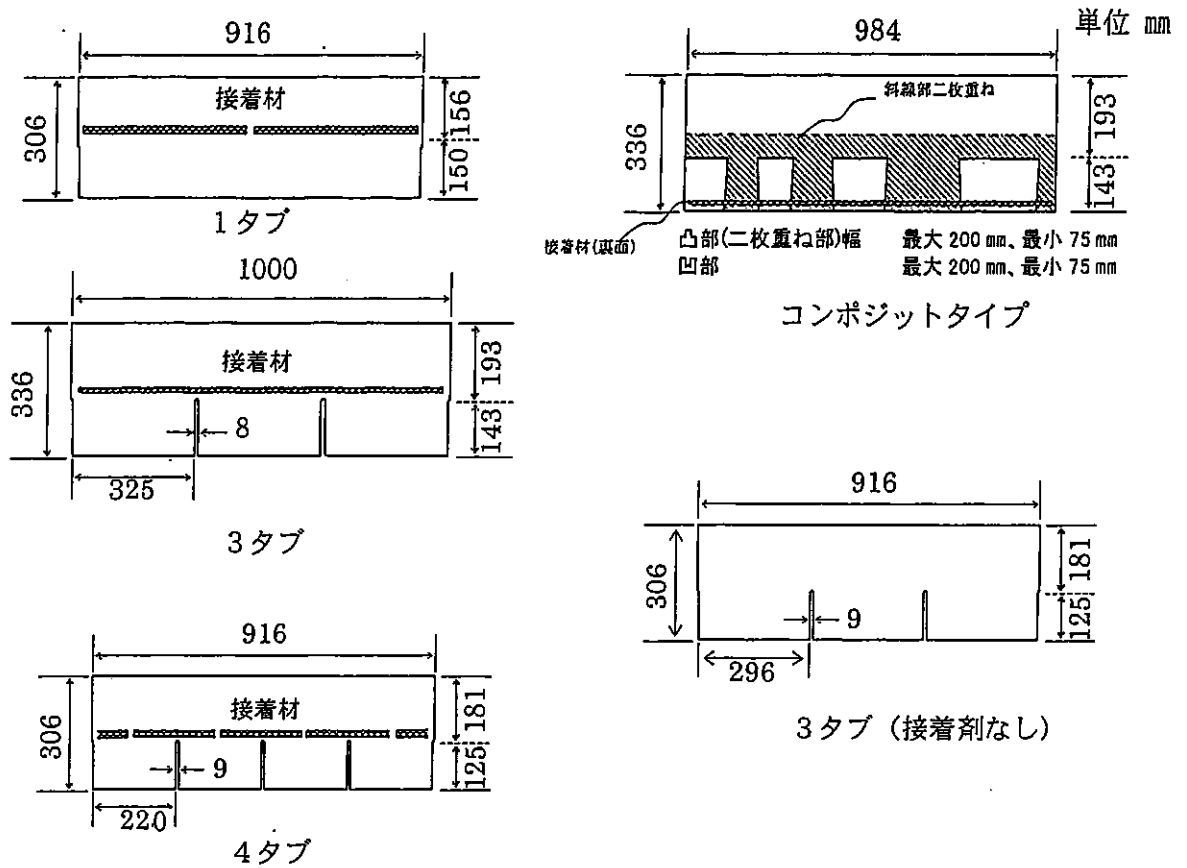


図1 アスファルトシングル形状

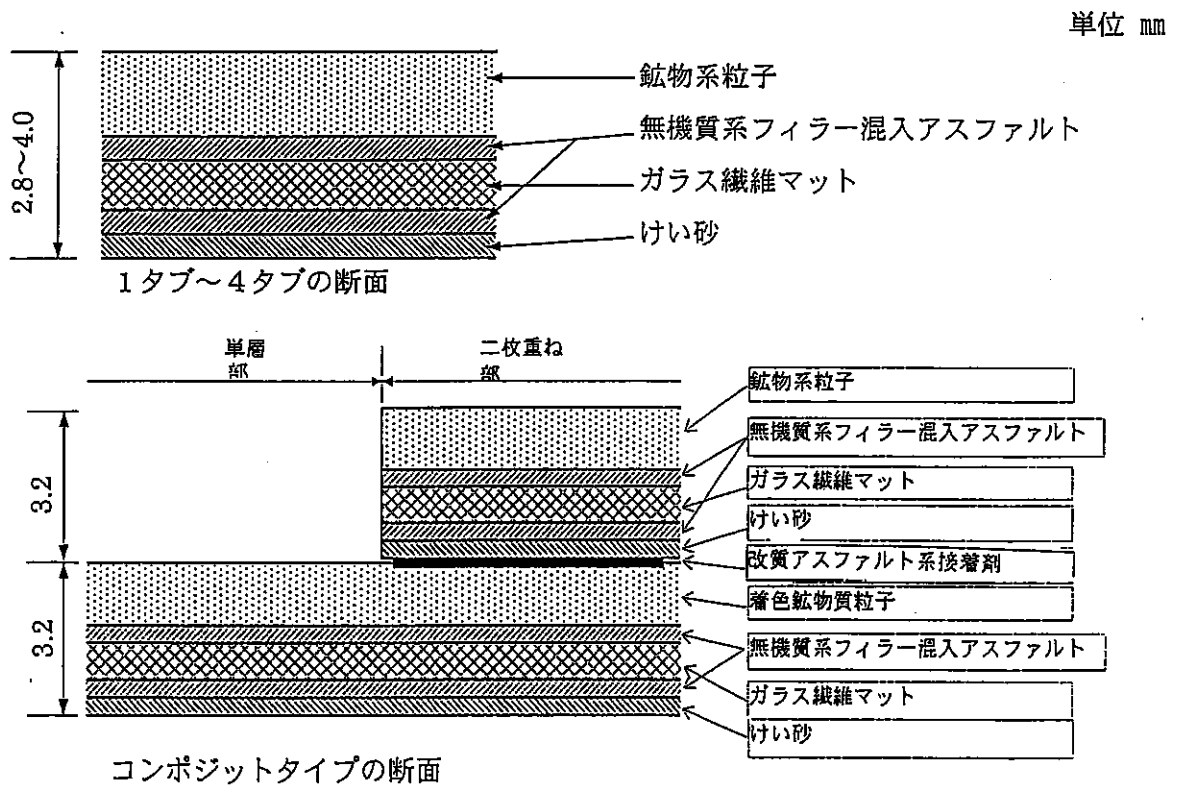


図2 アスファルトシングルの断面構成

表3 アスファルトシングル<sup>®</sup>の質量

形状	1タブ		3タブ			4タブ	コンポジットタイプ
厚さ mm	3.2	3.2	3.2	4.0	3.2	3.2	6.4
幅 mm	306	306	306	306	336	306	336
働き幅 mm	150	150	125	125	143	125	143
質量(1枚) kg/m <sup>2</sup>	4.2	4.6	4.6	6.3	4.2	4.6	5.2
質量 kg/m <sup>2</sup> (施工面積当り)	8.6	9.4	11.3	15.4	9.9	11.3	12.2

4. 申請仕様の副構成材料

申請仕様の副構成材料を表4に示す。

表4 申請仕様の副構成材料

項目	申請仕様
くぎ、ねじ	鋼製くぎ、鋼製ねじ： 長さ 25 mm以上、直径 2.5 mm以上
ステーブル	鋼製ステーブル (JIS A 5556)

5. 構造説明図

申請仕様の構造説明図を図3及び図4に示す。

<幅方向断面>

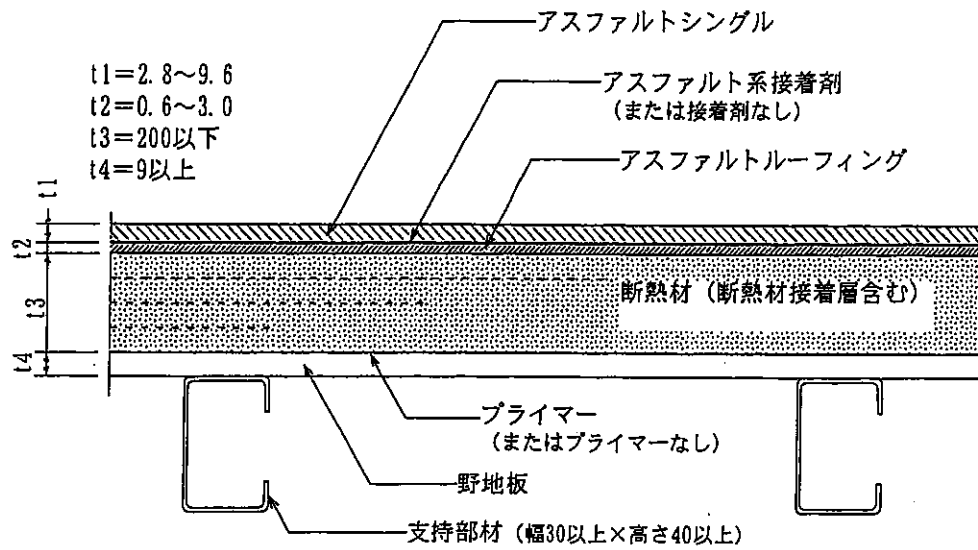


図3 構造説明図

<傾斜方向断面>

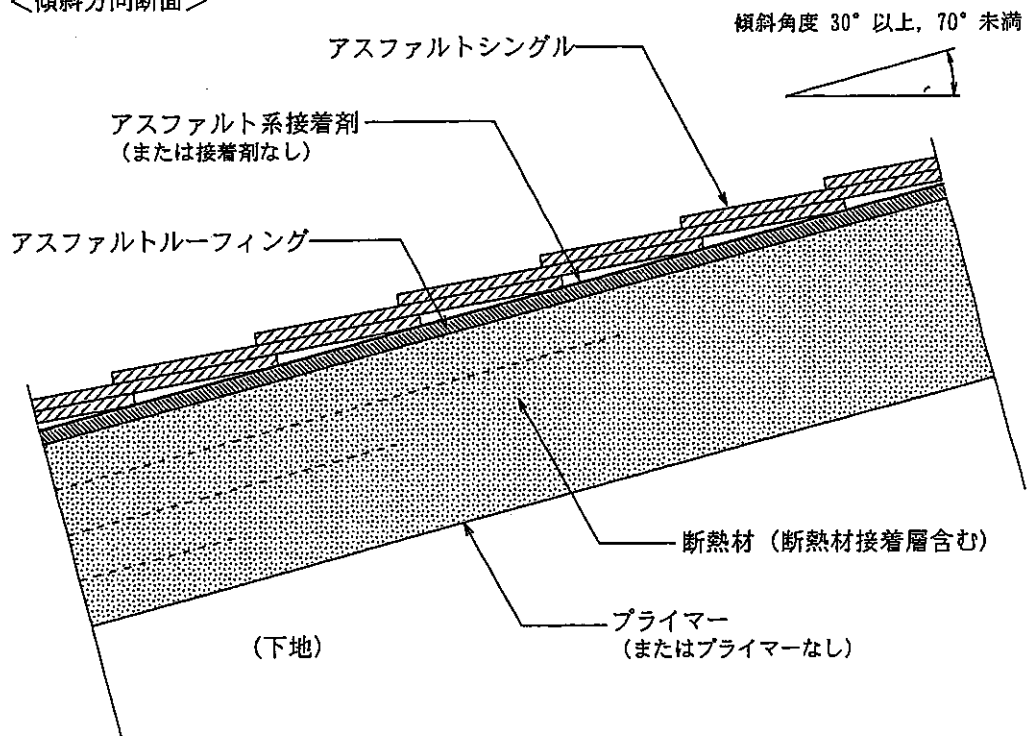


図4 構造説明図

## 6. 施工方法

申請仕様の施工図を図5～図7に示す。  
施工は以下の手順で行う。

### 1) 下地

- ・下地の勾配（傾斜角度）は30°以上、70°以下とする。
- ・目地あき、目地違いは平滑な状態に修正する。
- ・支持部材（垂木またはC型鋼）を用いる下地の場合は、たわみが生じないように、施工間隔は606mm以下とする。
- ・十分に乾燥すること。

### 2) アスファルトルーフィングの施工

アスファルトルーフィングの施工は以下の工法により行う。

#### 2-1) 粘着層がない場合

- ・下地に、ステーブルでアスファルトルーフィングを止めつけて、防水層を形成する。  
ルーフィングの重ね幅は、長手方向に100mm、幅方向に200mmとする。

#### 2-2) 粘着層がある場合

- ・裏面に付いている剥離紙または剥離フィルムをはがし、下地に貼り付ける。  
ルーフィングの重ね幅は、長手方向に100mm、幅方向に200mmとする。

### 3) アスファルトシングル(葺き材)の施工

アスファルトシングル(葺き材)の施工はアスファルトルーフィングの施工が完了した後、3-1)、3-2)いずれかの工法により行う。

#### 3-1) 釘打ち工法（下葺材が粘着層なしのアスファルトルーフィングの場合）

- ①葺き材の張り始めは、葺き材を切り出したスターターとし、その裏面にアスファルト系接着剤を塗布（塗布量1.2kg/m<sup>2</sup>以下）し、下地に接着させる。（または、あらかじめ接着剤を塗布した専用スターターを用いる）
- ②第1列目の葺き材は、アスファルト系接着剤を塗布（塗布量0.6g/m<sup>2</sup>以下）し、スターターから1/2～3/8ずらして下地に釘で固定する。
- ③2列目以降は、葺足（施工ピッチ）は、125～150mmとし、下地に釘で固定する。
- ④葺き材1枚につき5本以下の屋根材固定釘を打つ。
- ⑤葺き材張り付け後は、直ちに転圧ローラーで先端を、十分に転圧する。

#### 3-2) 接着工法（下葺材が粘着層ありのアスファルトルーフィングの場合）

- ①葺き材の張り始めは、葺き材を切り出したスターターとし、その裏面にアスファルト系接着剤を塗布（塗布量1.2kg/m<sup>2</sup>以下）し、下地に接着させる。（または、あらかじめ接着剤を塗布した専用スターターを用いる）
- ②第1列目の葺き材は、アスファルト系接着剤を塗布（塗布量1.2kg/m<sup>2</sup>以下）し、スターターから1/2～3/8ずらして下地に接着する。
- ③葺足（施工ピッチ）は、125～150mmとし、2列目以降は、アスファルト系接着剤を塗布（塗布量0.6kg/m<sup>2</sup>以下）し、下地に接着する。
- ④葺き材1枚につき2本以下のずれ止め釘を併用する。
- ⑤葺き材張り付け後は、直ちに転圧ローラーでアスファルト系接着剤塗布面に沿って、十分に転圧する。

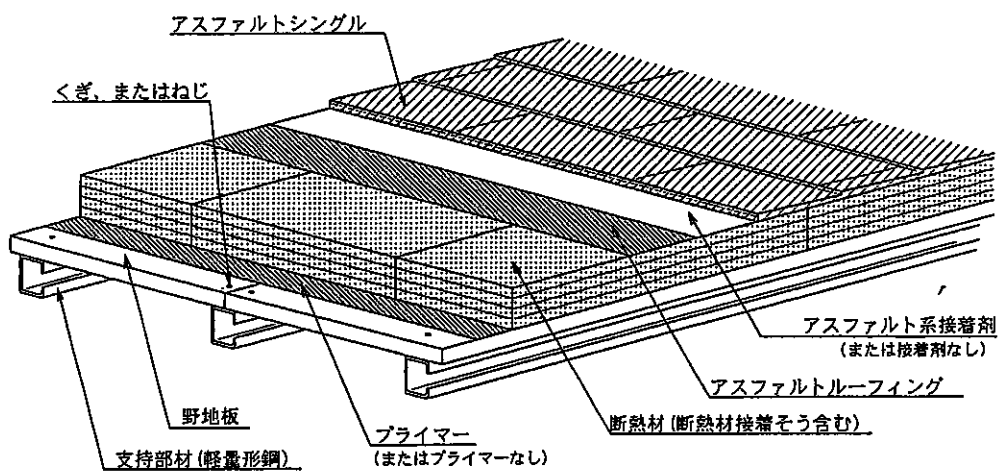


図5 申請仕様の施工図

単位 mm

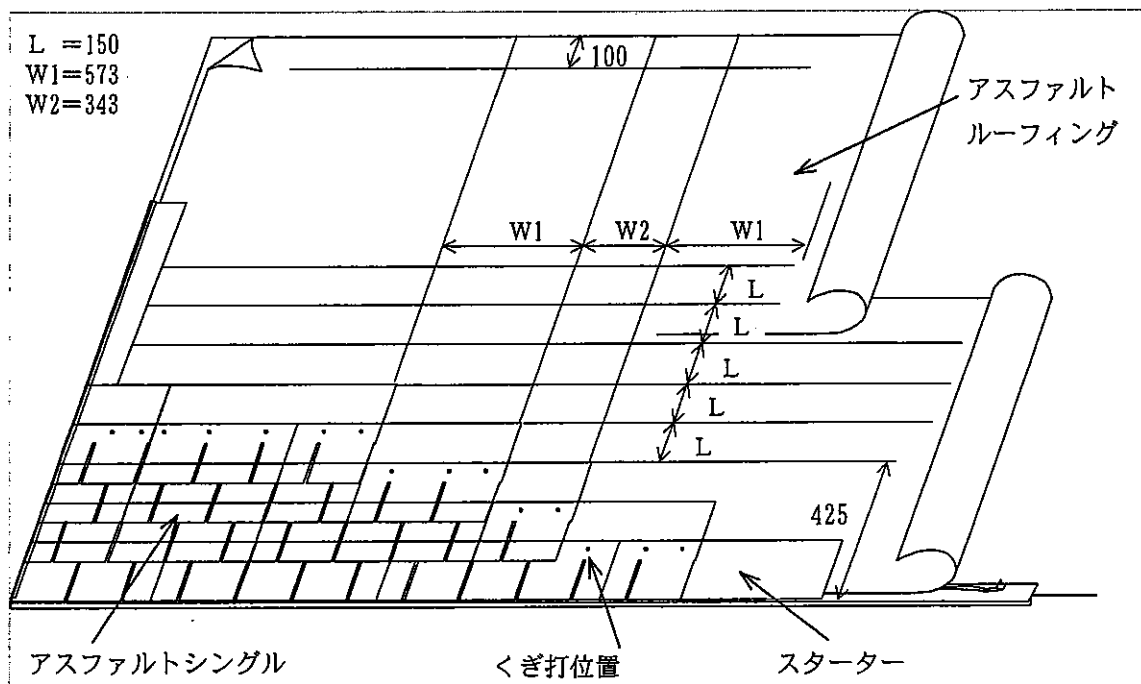


図 6 申請仕様の施工図 (アスファルトシングルの施工: 1タブ~4タブ)

単位 mm

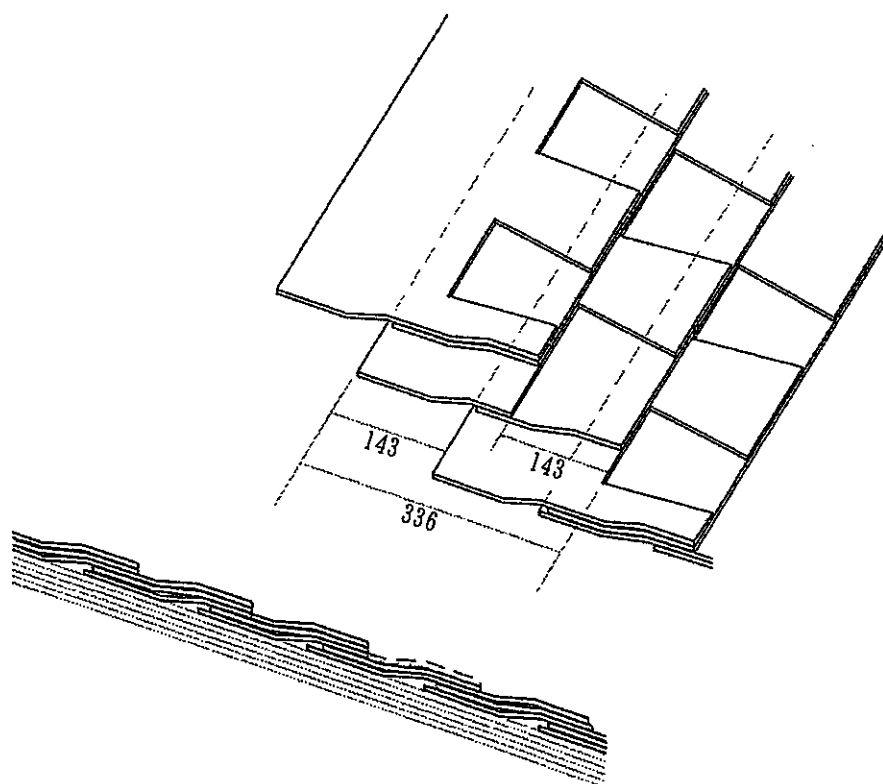


図 7 申請仕様の施工図 (アスファルトシングルの施工: コンポジットタイプ)